

サトウキビ「はるのおうぎ」の株出し栽培では、無マルチによる省力化が可能

熊毛地域における「はるのおうぎ」の株出し無マルチ栽培の原料茎重、可製糖量は、マルチ栽培と同等

背景・目的

- ・サトウキビ経営の大規模化に伴い、各作業の省力化、低コスト化が課題
- ・株出し萌芽性に優れ、茎数の多い多収品種「はるのおうぎ」は、令和4年から一般生産者での作付けが開始
- ・「はるのおうぎ」の特性を生かした省力・低コスト栽培技術が必要

成果の内容

- ・「はるのおうぎ」の株出し無マルチ栽培は、マルチ栽培に比べて、原料茎数、一茎重、原料茎重、可製糖量が同等
- ・「はるのおうぎ」の株出し無マルチ栽培は、「農林8号」のマルチ栽培に比べて多収



「はるのおうぎ」マルチ栽培



「はるのおうぎ」無マルチ栽培

初期生育の様子
株出管理：平成31年2月20日
撮影日：令和元年5月13日

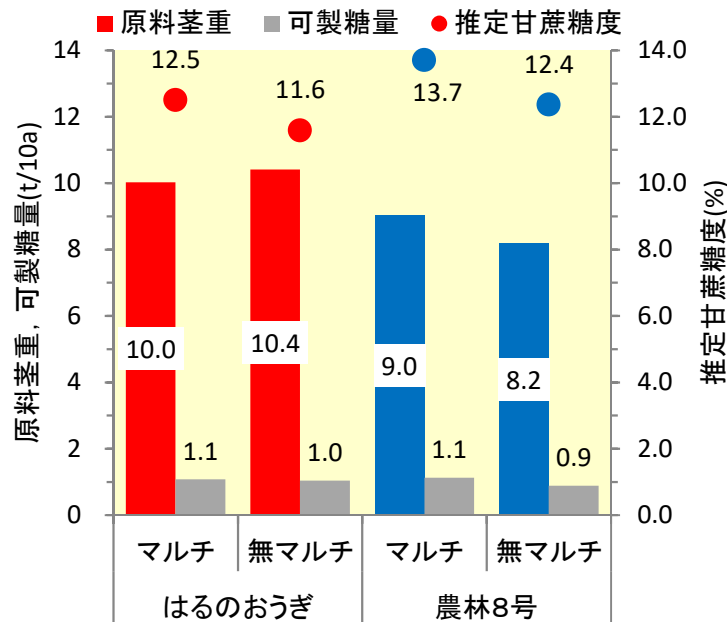


図 マルチの有無による原料茎重、可製糖量、推定甘蔗糖度
注1)1回株出し栽培2作(令和元、3年度)の平均値
注2)新植時はいずれもマルチ栽培

期待される効果

○株出し栽培におけるマルチの展張、除去作業を省略



マルチの展張作業

○マルチ資材、廃プラ処分料、燃料費等を削減

マルチ栽培に係る労働時間や物財費の削減が可能

○サトウキビ生産量の底上げ

既存品種の一部を転換し、生産量増加によるサトウキビ生産の維持・向上を実現

○普及対象・範囲

熊毛地域のサトウキビ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
熊毛支場作物研究室